

センターだより

保存版

特別号 VI ①
平成22(2010)年3月18日発行
吹田市立教育センター
大阪府吹田市出口町2-1
TEL 06-6388-1455
FAX 06-6337-5412
メール s-educ@suita.ed.jp

高野台中学校 榊 貴恵先生(音楽教育)

☆生徒をグッとひきつけ、本気にさせる音楽指導をされています。

西山田中学校 野本 玲子先生(道徳教育)

☆いつも元気、こころも元気に取り組んでおられます。

私の実践 (日々の授業で意識していることです)

- ①授業規律 勝負は1年生入学後、1ヶ月!
(これで3年間の授業が決まると思っています)
- ②授業研究・教材研究
 - ・常にアンテナを張って授業で使えるような良い教材を探す。
(研究会参加、テレビ番組チェック、教師間の交流他)
 - ・授業を多くの方に見てもらってフィードバックをもらう。
同じ教科に関わらず、他の先生方の授業を見せてもらう。
(自分の授業の時とは違って生き生きした表情の生徒を見ると、まだまだ自分にやれることがあると刺激をもらいます)
 - ・一番正直な評価をくれるのは「生徒たち」。
(授業が終わって教室を出る時ため息をついているのか、その日授業でやった曲を口ずさんでいるのか…私のチェックポイントです)
- ③「本物」の体験
音楽鑑賞会、音楽交流、音楽会・コンクール参加など、生徒に良い感動体験をさせることが種になって、豊かな感受性を育てることになると思います。
- ④環境整備 教室の掃除・整備(無駄なものを置かない)、机の落書き・掲示物のチェックなど、手を抜くと授業に落ち着きがなくなります。



私の実践・・・

吹田市中学校道徳副読本『いきいき』の編集に関わらせていただき、目の前の子どもたちの課題を見つめることから、実態にあった教材と授業を創ってきました。研修等で行かせていただいたオーストラリア・アメリカ・ニュージーランドで行われている教育や、道徳性心理学を用いた少年院等の矯正教育、学校心理士のカウンセリングマインドを活かし、子どもの心に響くような視聴覚教材やICTも取り入れながら、今からの吹田の中学生にとって本当に必要な道徳教育はどうか研究しています。学研道徳部としても、教育研究大会や吹田の道徳ネットで発信しているところです。

「吹田の中学生ってどんなん?」と聞かれたときに、学力はもちろんだけれども、「あたたかい心で、自分もまわりも大切にできる心が育っている」と言えたらいいなあ…と思います。やんちゃな子も、勉強が苦手な子も、人間関係に悩んでいる子も、みんながいのちのつながりを感じながら、明日も頑張ろうと思えるような「こころを元気にする道徳の授業」を、一緒に勉強させていただきながら創っていきたくと願っています。



若手教職員に、今、伝えたい!

★5+6+3+10=24 を 35枚のお皿にのせて

吹田は、形式でなく、中身から、子どもたちに考えさせたいことを大切にして、道徳の時間を作ってきた歴史があります。これは素晴らしいことです。道徳教育は学校の教育活動全体を通じてやることですが、週1時間の道徳の時間は、計画的に、道徳的な価値と、それにもとづいた人間としての生き方の自覚を深めなければなりません。どうか、もう一度、学習指導要領の「第3章 道徳」を見直してください。そして、35時間のあいだに、4つの大きな分類、24個の内容項目(中学校)のすべてを扱おうとしたか、見つけ直してください。みなさんが教えていらっしゃる子どもたちは、いろいろな価値について考える機会を与えられたでしょうか。

そしてもう一つ。ぜひ、自分は、このことを伝えたいという熱い想いを育てる内容で、本や新聞やテレビやインターネットでネタ探しをして、じっくり自分の教材を一つ作り、保護者への授業参観でも、同僚への授業公開や研究授業でもいいので、見てもらってください。本当の意味で、道徳の授業ができるようになるための、これがスタートです。例えば、典型的な読み物教材も、考えさせたいこと、押さえるべきことをはっきりさせるのは同じです。大変だけど、頑張ってください。ご相談にのります。(*^_^*)

若手教職員に、今、伝えたい!

- ・生徒のせいにしない。
(授業や生徒との関わりがうまくいかないと、つい相手のせいにしたくなります。でも受け入れ難いですが、自分が招いた結果です。)
- ・自分がワクワクすることを見つける。
(職場でも、私生活でも、生き生きしていること、元気でいることがやっぱり何より一番)

山手小学校 有森 清美先生（算数教育）

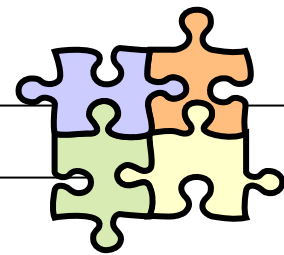
☆一人ひとりに力をつける算数指導に
バイタリティー満々で取り組んでおられます。

私の実践・・・

教職3年目のある日。「少し学校にも慣れてきたし、そろそろ何か勉強しませんか。」と大学の友人から1本の電話がありました。それから算数教育の研究会に行き始めました。辞書を片手に外国の算数の教科書を見たり、他市の研究会へ出かけたりしました。研究というよりも友だちとおしゃべりしたり、旅行に行けたりするのが楽しかったのかもしれませんが・・・

学研でも算数部の先輩先生方に指導を頂きました。問題解決学習が重視されるようになった初期で、授業の進め方はもちろん、児童のどの考えをどんな順に検討していくかについて、1時間の授業にもかわらず何度も学校まで来て頂いて指導してもらったのを覚えています。これまで算数部で研究してきた問題解決学習で身につく力は、指導要領の改訂で求められる力と一致していると思います。

今は、大阪府教育委員会の学習指導ツールの会議に参加させて頂いていますが、思考力・判断力・表現力を育成する問題やより深い意味理解の定着をみる問題を検討しています。知識理解をみる問題は作りやすいし採点もしやすいのかもしれませんが、固い頭を悩ませています。



若手教職員に、今、伝えたい！

私がずっと指導を受け続けているのが、教師は教えるという姿勢ではなく、子ども自らが発見するように導いていく姿勢であるということです。授業を見ていると、「あの発言を次につなげてあげればいいのになあ。」と思うときがあります。こう進めたいという教師の思いが強いとその発言の意味に気づきません。若い先生方は授業を進めるのに必死だと思いますが、子どもがどう発言するかを楽しんでください。多様な子どもの考えを認めてください。しかし、その内容がどこにつながり、何を押さえなければいけないのかは、学習内容の研究が必要です。教材を見る目と子どもを見る目を鍛えてほしいと思います。

山手小の授業研究会では、グループ形式で話し合い、若い先生方も意見を言いやすい雰囲気で行っています。「自分ならこうする」という柔らかい頭の提案をどんどん待っています。



吹田第三小学校 後藤 明弘先生（音楽教育）

☆音楽を通して、幼小をつなぐ取組を実践されています。

私の実践・・・

「一人ひとりが主役になれる音楽」を念頭に、全学年にかかわっています。長年かけて、笛やハーモニカの進度に即した合奏教材開発を進めてきました。全員が好きな楽器を選び、交替で演奏するものです。（笛やハーモニカは順番待ちの時に吹きます。）これを授業の終盤に練習します。音楽の得手不得手や好き嫌いを超えて友達同士励ましあうので、学級全体の雰囲気盛り上がります。

ときに伝統音楽や民族音楽に関わる和楽器や民族楽器等の体験演奏や、グループ創作（ふしづくり・リズムあそび）を合奏に組み入れ、指導の効率化を図っています。

また幼小連携のため、併設幼稚園の訪問保育「歌ってあそぼう」をしています。園で歌っている歌に即興的なリズムや振りを付けさせるなどして園児と一緒に楽しんでいます。

夏休みには初任者や有志の先生と、リコーダーの重奏を演奏録画して教材DVDを制作しています。

若手教職員に、今、伝えたい！

音楽に限らず得意（専門）分野で・・・

学習指導要領や教科書の内容は時代や社会の情勢によって変わっていきます。が、情勢がどのように変わろうともどの教科にも「不変の部分」はあります。それを見据えた上で、自身の力でオリジナルな教材や教具、指導法の開発に取り組んでみてください。

音楽では・・・

普段、児童やCDに伴奏させていらっしゃっても、せめて学期に1回、自分の伴奏で歌わせてください。合わせる喜び（苦勞）を子ども達とともに味わうのも貴重な体験です。

おもに専科の方に・・・

楽器はみんなのものです。みんなで使う機会を設けてあげてください。



余談ですが・・・

全廃にならないうちに、一度は寝台列車に乗ってみてください。横になって鉄道独特のリズムや揺れを感じられるのは、音楽的にも貴重な体験だと思います。